

| | 試験科目 | 出題意図 |
|---|------|---|
| 人間科学研究科 化粧品ファッション学専攻 2025年 2月22日 実施 | 小論文 | <p>留学生入試：</p> <p>日本の化粧品やファッションの特徴を理解し、現代の変化の要因を分析し、今後の発展について論理的に考察する力を評価する。特に、文化理解、論理的思考、具体例の活用、日本語の表現力を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の化粧品やファッションの特徴の理解：日本の化粧品・ファッションの特徴を、伝統（和装・白粉・舞妓化粧）と現代（韓国コスメ、ストリート、サステナブル）をバランスよく示しつつ、「清潔感」「流行重視」「TPO意識」などの美意識も踏まえて説明できているか。 戦後から現在に至る化粧品・ファッションの変化（洋装化・大衆化、メディア発達、性差是正の制度化、低年齢化、近年のグローバル化・SNS・ジェンダーニュートラル・サステナビリティ等）を適切に挙げ、伝統と現代の融合や価値観の変化（個性重視、脱・性別メイク等）にも触れられているか。 今後の発展に関する考察：これまでの変化を踏まえ、技術進化（AIメイク、3Dプリント等）・価値観の変化（DE&I、多文化共生）・環境課題（エシカル、ヴィーガン等）を考慮しながら、今後の日本の化粧品・ファッションの発展を具体的に展望できているか。 表現力・日本語の明瞭さ：適切な語彙で明瞭な日本語になっており、文法・漢字の誤りが少なく論理展開も滑らかで、1000字以内で簡潔かつ説得力をもって書けているか <p>社会人入試：</p> <p>「化粧品ファッション学」とDE&I（多様性・公平性・包括性）の関連性を理解し、具体的な社会事例を基に今後の可能性を考察する力を評価する。特に、論理的思考、実務経験の活用、説得力のある考察を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「化粧品ファッション学」とDE&Iの関連性の理解：「化粧品ファッション学」が、化粧品・ファッションを通じてジェンダーや年齢、障がい、人種、宗教など多様性を支援しうることを踏まえ、DE&Iの理念とその社会的意義を結びつけて社会のDE&I推進への貢献を的確に説明できているか。 具体的な社会事例の提示と分析：社会人としての実務経験・職業的知見を活かして企業・団体・業界の具体的な事例を挙げ、そのDE&I上の意義を論理的に説明しつつ、独自の視点を示しているか。 今後の可能性に関する考察：「化粧品ファッション学」が今後のDE&I推進にどう具体的に貢献できるかを、ダイバーシティ経営・サステナブルファッション・AI×DE&Iなど現代動向を踏まえて考察し、自身の業務経験や興味・専門分野と結びつけて提案できているか。 表現力・論理構成：論理展開が明快で説得力があり、社会人にふさわしい語彙・表現で専門内容も分かりやすく説明しつつ、1000字以内で簡潔かつ的確に論じられているか。 |

| | |
|------|---|
| 専門科目 | <p>(ファッション学分野)</p> <p>ファッション学分野において現代的なトピックについて正確な理解度を確認する。また、それらの語句をファッション業界が直面している具体的な取り組みや諸問題と関連づけ、専門的知見に基づいて論理的に考察し、自身の考えを1,000文字程度で記述できているかを評価する。</p> <p>(化粧デザイン学分野)</p> <p>化粧デザイン学分野に関わる専門用語の意味を正しく把握しているか、また複雑な問題文を読解できるかを確認する。さらに、化粧デザイン学の知識が日常といかに関連づけられているかについて、1,000文字程度で論理的に記述できているかを評価する。</p> <p>(身体表象学分野)</p> <p>身体表象学に関連する概念についての理解度を問う。あわせて、これらが単なる学術用語にとどまらず、日常生活においてどのように機能しているかについて、専門的知識と具体例を関連付けながら分析・説明でき、それを1,000文字程度で記述できているかを評価する。</p> |
|------|---|